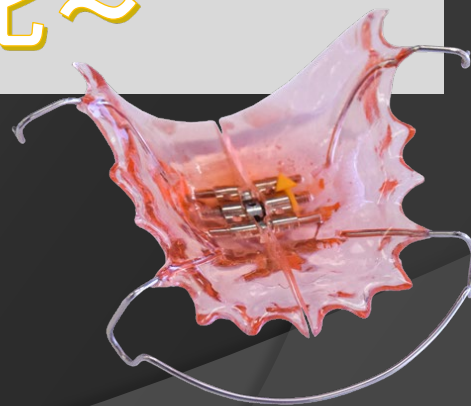


加圧形成器を用いた 拡大装置作製の提案

～技工作業の効率化～



株式会社 JM Ortho

加圧形成器を使用することで・・・

メリット

- ◆ 床作製の操作が比較的簡単
- ◆ プレート自身の艶のある表面性状を活かせるため
辺縁形態・研磨作業の時間を短縮できる
- ◆ 床の厚みを均一にできる
- ◆ 粘膜面側の仕上がりが滑らかになる

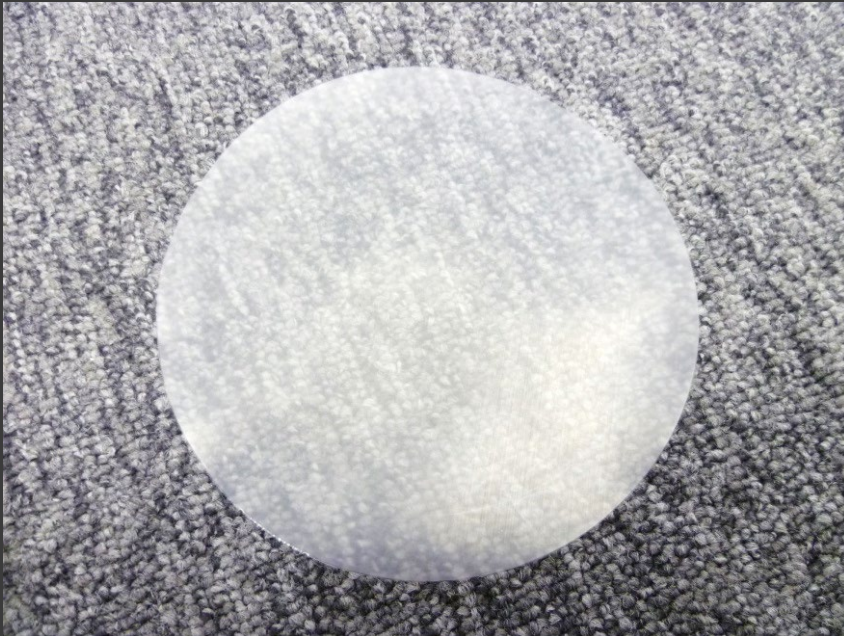
デメリット

- ◆ 圧接作業に入るための準備(セット)が必要
- ◆ レジン流し込みの加減にコツがいる

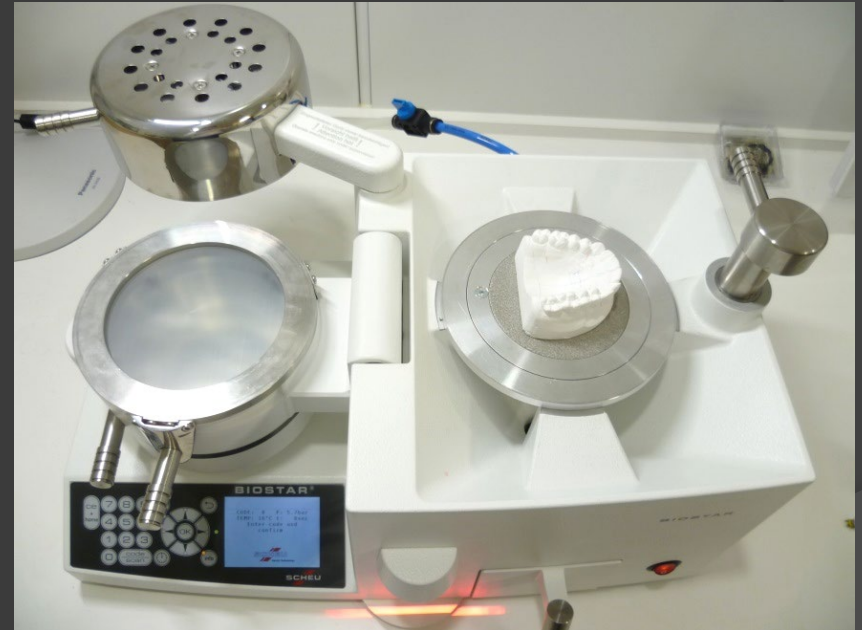
作製方法

レジン分離用シートの圧接

レジン分離材の代わりにレジン分離用シート(0.1mm)を圧接します



イソフロランフィルム



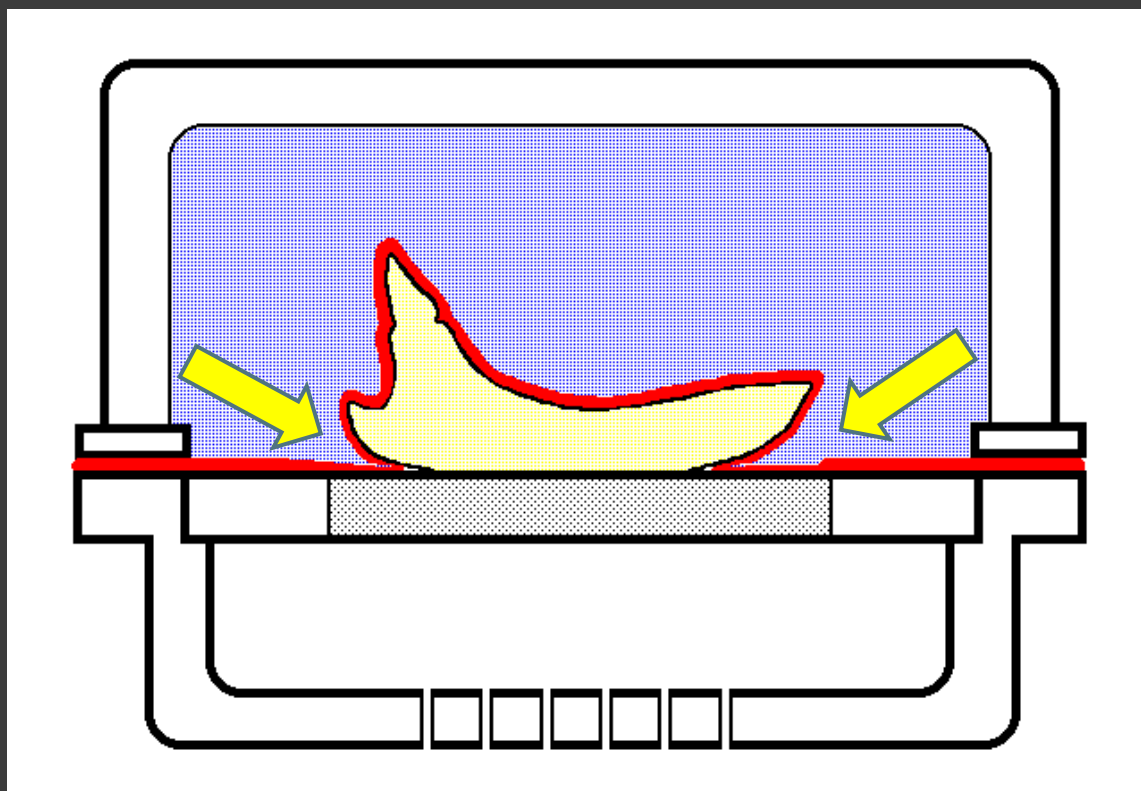
模型のセット～形成

基底面を平らにした模型を加圧形成器のプラットフォームに置いて形成します



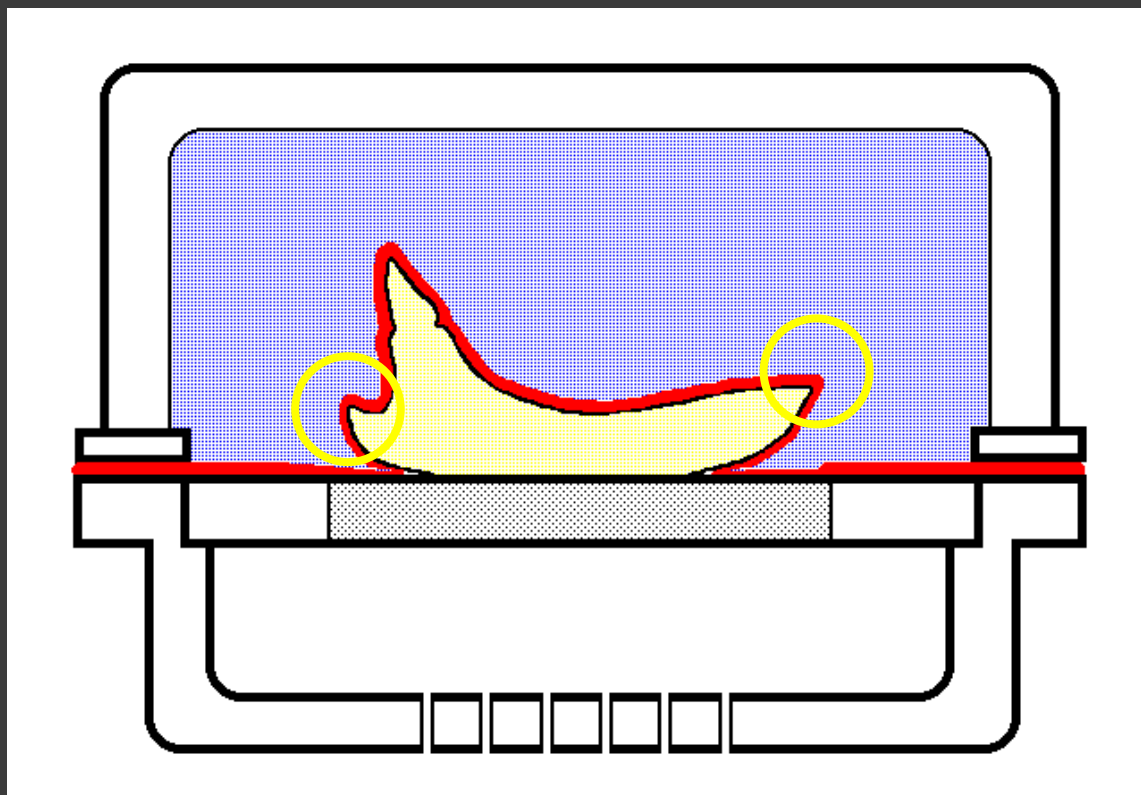
模型をセットする際の注意事項

モデルプラットフォーム上でプレス(吸引)する時には、
模型の基底面にアンダーカットを作らないようにします



模型をセットする際の注意事項

プレート／シートが裂ける原因になるような尖った箇所はトリミングして丸めておきます



分離用シートのトリミング

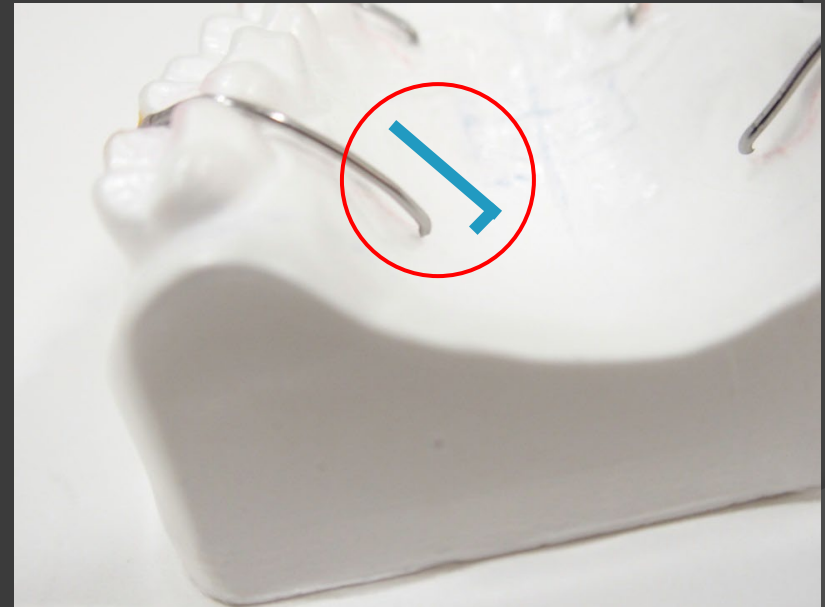
分離用シートは基底面に沿ってカットし、2次プレス
のシートとの間に空気が溜まらないよう歯間部や咬合面
に軽く切れ込みを入れます



クラスプ線の用意・仮着

予めまげておいたクラスプ線をイソファンフォームの上にセットし、スティッキーワックスで固定します

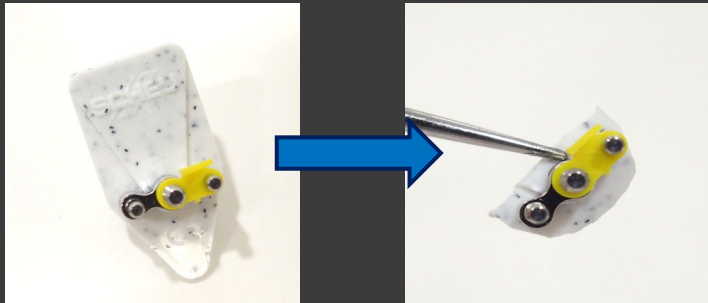
シートを圧接した際にクラスプ線の脚が押されるため、粘膜面から脚が露出しないように端を模型側に曲げて接地させるようにします



※この時、プレートに埋まって欲しくない部分(クラスプの脚部以外)にワセリンを塗っておくと、プレートから切り出すときにクラスプにまわりついたプレートを外しやすくなります

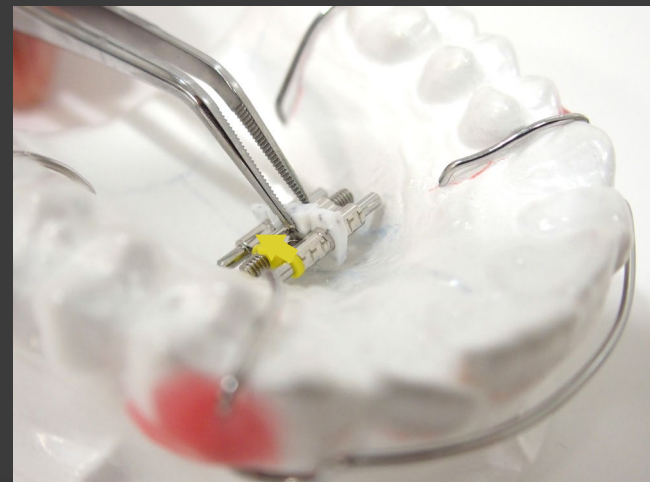
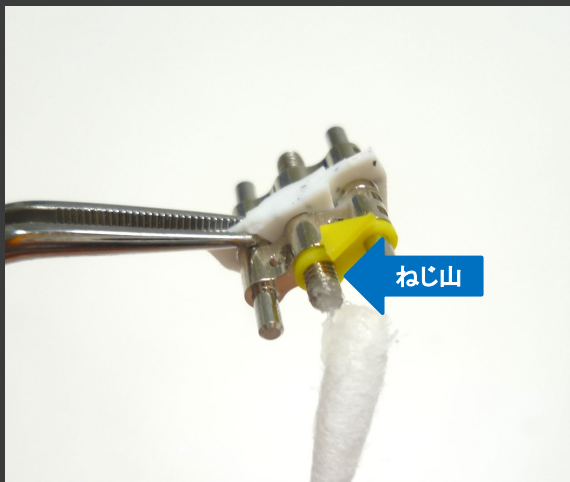
拡大用スクリーンの準備

スクリーン周りを残し、プラスチックタグをカットします



※あらかじめ空けておいた穴にスクリーンを立てる方法も可能ですが、その場合もタグの上部はカットしてください

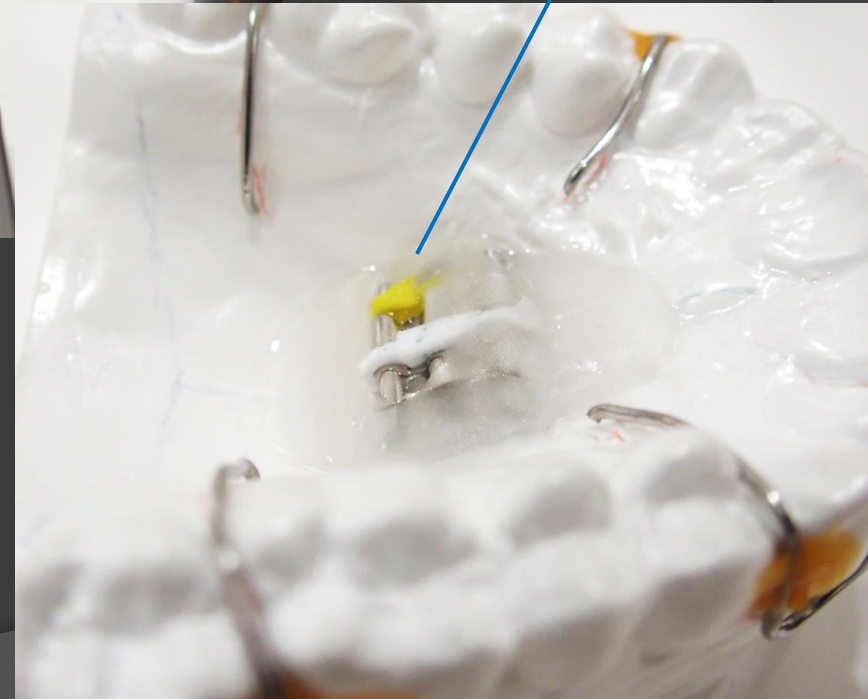
レジンの巻き込みを防ぐため、ねじ山にのみ薄くワセリンを塗布します
その後、一度模型にスクリーンを試適します



拡大用スクリューのセット(仮着)



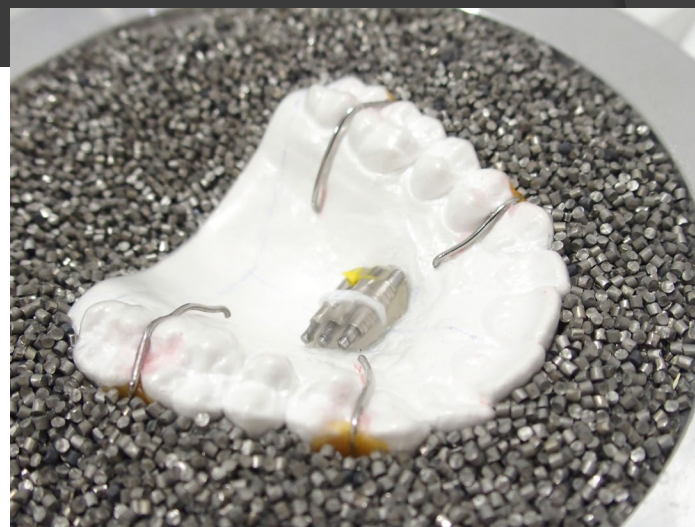
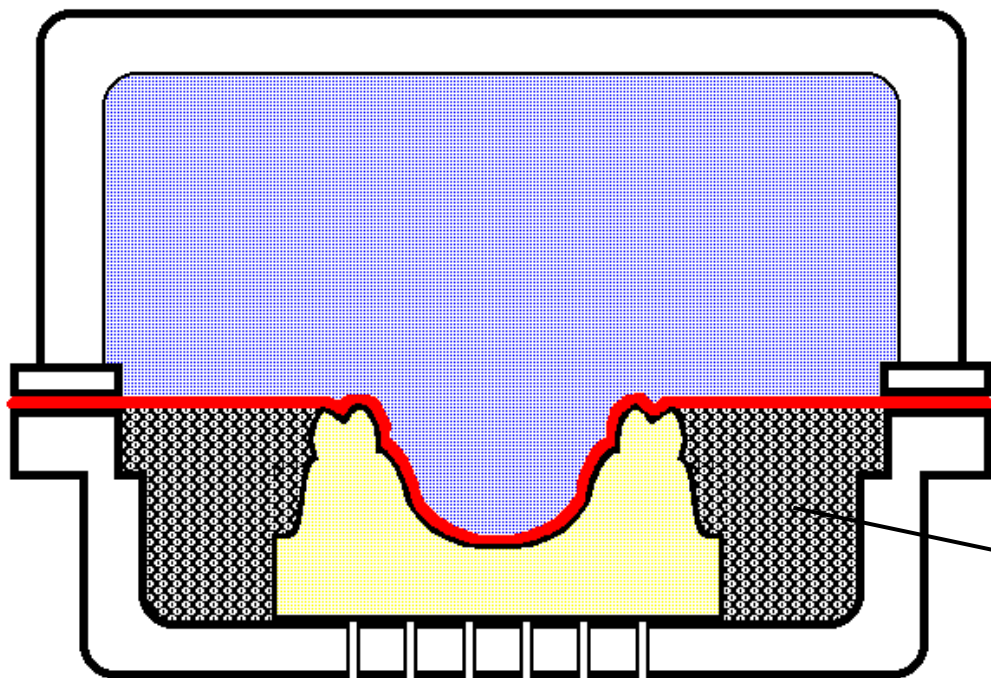
矢印は口蓋の奥の方に向けます



- ・ 硬めに混和したレジンにスクリューの裏面に塗布し、模型に仮固定します
その際レジンを多めに盛っておき、スクリュー下部に隙間(アンダーカット)ができないようにします
- ・ プレスした際にスクリューがずれない程度に硬くなった次ステップに移ります

模型のセット

模型の高さはなるべく低くしておきます
バイオスターの場合は咬合面の高さまでステンスペレット(鉄の粒)に
埋没します(プレートが外しやすくなります)



ステンスペレット

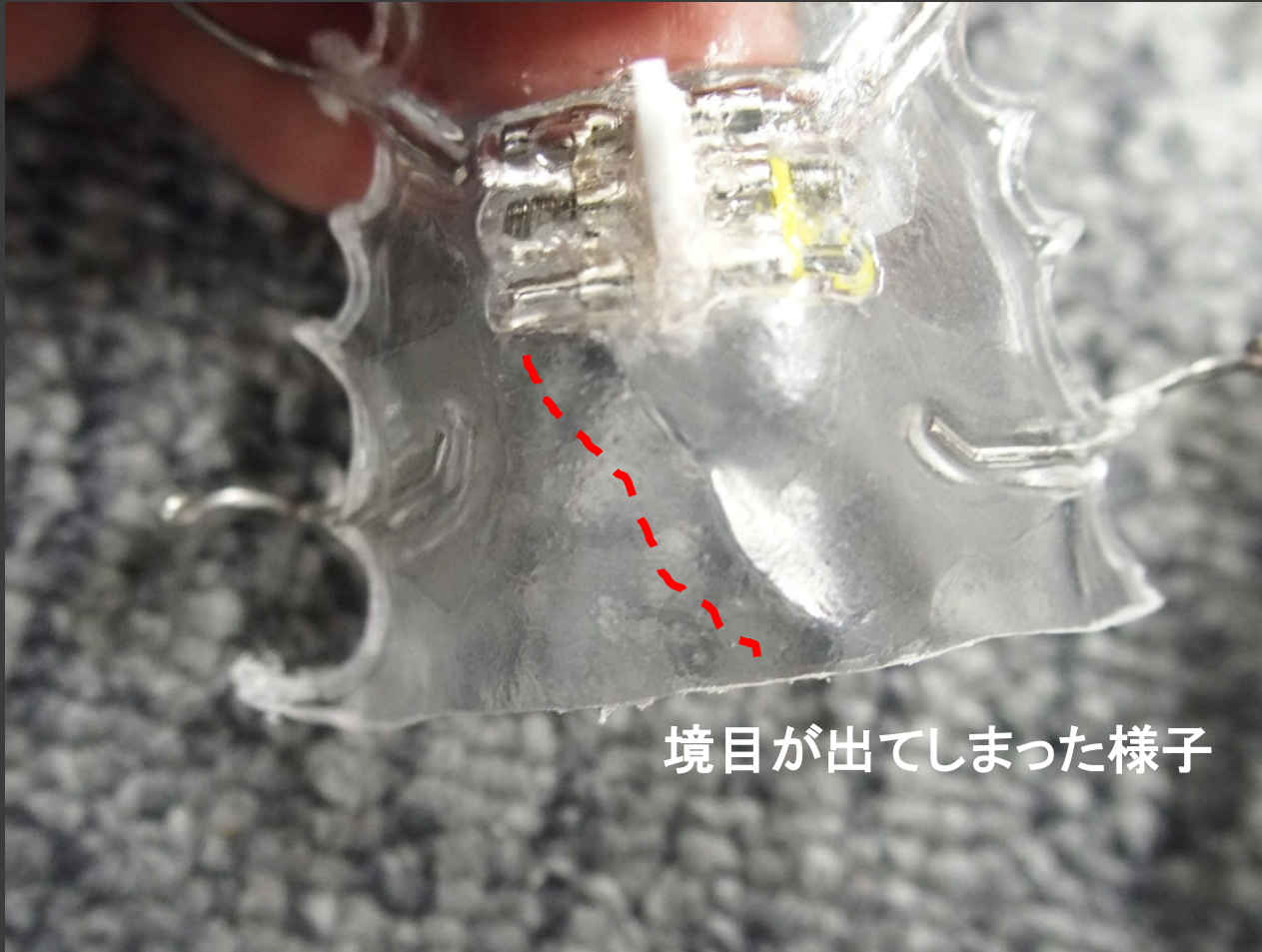
圧接の準備

- ◎ レジンが接着できる材質のプレート(2.0～3.0mm程度)を使用
- ◎ 口蓋部に埃や小さな屑などがいないか確認
- ◎ プレートを加熱している間にレジンを練和します
※流し込み後できるだけ早く圧接の行動に移れるよう逆算して練和を始めます※
 - ①しっかりフローのある状態でまずクラスプ線脚部に流します
 - ②次にスクリュー上部にまんべんなく流します
 - ③床となる部分ほぼ全体に流し込み、すぐに圧接します
- ◎ レジンが硬化するまで圧力をかけ続けておきます
(加圧により気泡の発生を抑えることができます)

プレス後の様子

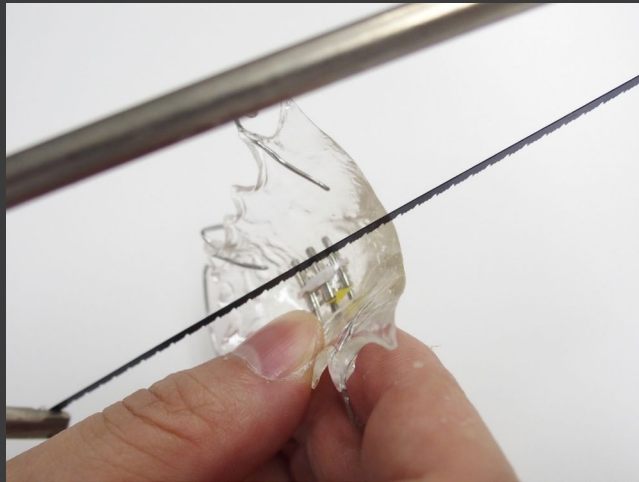
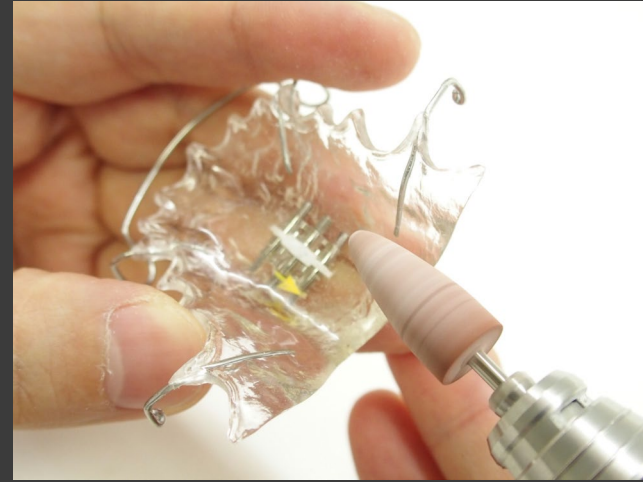


レジンの量が少ないと・・・

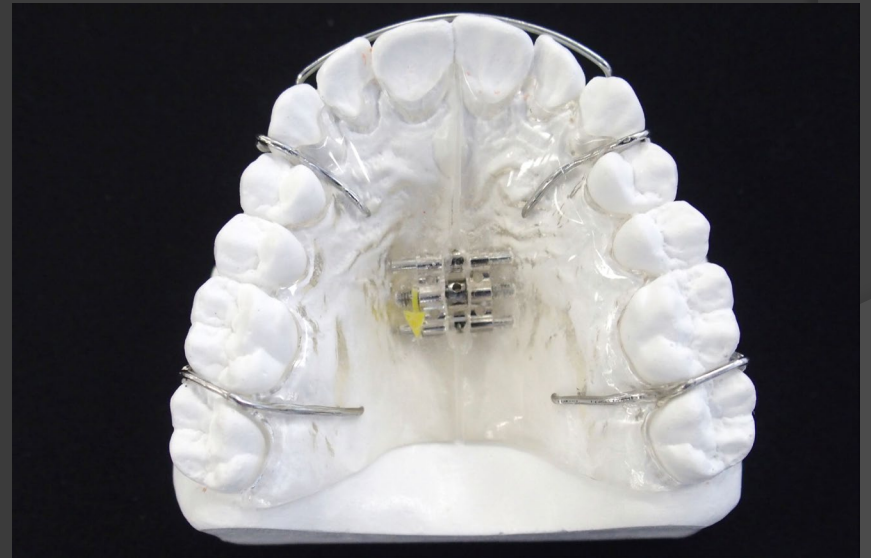
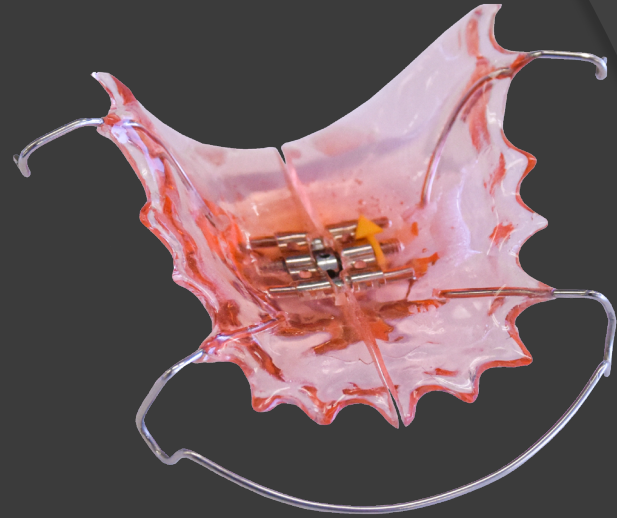
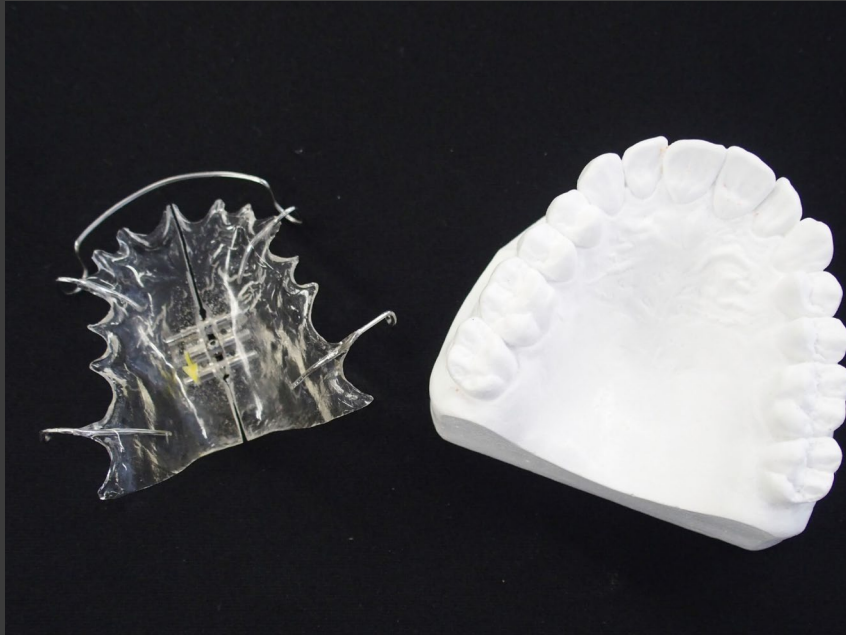


境目が出てしまった様子

仕上げ



完成



株式会社 JM Ortho